

# 教師用 指導案

## 1. テーマ・授業名

テーマ2 パラリンピックスポーツ

授 業 2 「シッティングバレーボールをやってみよう！」

## 2. 授業の目標

- ・シッティングバレーボールのエッセンスを体験することで、パラスポーツを身近に感じ、興味を持つ。
- ・上肢に障害のある人と下肢に障害のある人が共に参加できるようにバレーボールのルールを一部変更して行うシッティングバレーボールを体験し、異なる特性をもつ人たちがともにスポーツを楽しむための工夫の大切さを理解する。
- ・チームプレーを行う中で、的確な指示を出したり、相手の立場に立って物事を考えたりすることの必要性に気づく。その結果、障害者理解だけでなく、コミュニケーションがうまくとれるようになり、友達を信頼したり、尊重しあったりしてクラスの雰囲気をもたせることができるようになる。

## 3. 本時の位置づけ

- ・総合的な学習の時間での活用。  
※その他、学級活動や学年集会などの時間を活用してもよい。

## 4. 指導上の留意点、工夫点

- ・本時の前に、[2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！]を実施し、時間内にシッティングバレーボールの試合やルールの映像を見せておくとよい。[2-1] を実施していない場合は、給食などの時間を使って、本時が始まる前に映像を見せておくとよい。
- ・ソフトバレーボールを体験したことがないと試合を成り立たせるのが難しいので、本時では練習までにとどめる。
- ・複数時の授業数が確保できる場合は、サーブなどの練習をして、試合に挑戦するとよい。
- ・「お尻を床につけたまま移動するには、どうするといいか」「長くラリーを続けるためにはどんなコツがあるか」「言葉の掛け合いなどはどうすべきか」など、できるようになるための工夫ができていたら、積極的に認めていく。

※詳細は「かんたん！シッティングバレーボールガイド」（公財）日本パラスポーツ協会発行

[http://www.parasports.or.jp/about/referenceroom\\_data/competition-guide\\_19.pdf](http://www.parasports.or.jp/about/referenceroom_data/competition-guide_19.pdf)

## 5. 準備物

- ・授業用シート (2-2)
- ・児童用ワークシート (2-2)
- ・映像資料：シッティングバレーボール
- ・ソフトバレーボール (チームの数分)  
※なければビーチボールでも可  
※バレーボールは硬いので、やわらかいボールが望ましい。  
硬いボールしか用意できない場合は、1回バウンドしてよい、キャッチしてよいなどのルールを適用するとよい。
- ・コーン (チームの数分)

### 【競技説明】



動画でコートでの準備の仕方や、指導上の留意点をご説明しています。

【教師用映像】シッティングバレーボールをやってみよう！（4'25"）をご覧ください。



## 〈展開案〉 ※ 【 】内は経過時間

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
導入 (10分) 【10分】 目安 めあて：5分 ルール：5分	(1) 本日のめあてと、授業の内容を説明する。 〈めあて〉 ①シッティングバレーボールを体験する。 ②楽しさを知る。 〈本日の授業〉 シッティングバレーボールについて知る→練習①→練習②→振り返り (2) シッティングバレーボールの基本的なルールを説明する。	(1) ・様々な説明の中で、コミュニケーションの大切さを感じさせ、児童の気づきを引き出す。 (2) ・バレーボールとの違いを示すことで、シッティングバレーボールを理解しやすくする。 ・試合はせず、練習のみすることを伝える。	・授業用シート (2-2)  【教師参照】 ・教師用ハンドブック「パラリンピックスポーツとは」参照 ・映像資料：シッティングバレーボール
準備体操 (3分) 【13分】	シッティングバレーボールに合った準備体操を行う。 ・座った姿勢での準備運動	・肩や首、指を念入りにストレッチしておく。 ・座った状態で、受け身のような動きをして、後ろに倒れてもあごをひいて、頭を打たないようにする練習をしておく。	【教師参照】 ・映像資料：シッティングバレーボール
展開① お尻を床につけたまま動く練習 (9分) 【22分】 目安 鬼ごっこ：4分 ルール：5分	お尻を床につけたまま動く練習 (1) 鬼ごっこ (2) ボールをバトン代わりにして、あまり手を使わずお尻を床につけたまま動き回す	(1) ・鬼ごっこに限らず、お尻を床につけたまま移動することに楽しさを感じさせるような練習にする。 (2) ・チームごとに、少し練習し、どうすれば速く進めるか、考えながらできるようにする。 ・2メートルくらい先にコーンを置いて、そこを回ってくるリレーを行うが、発達段階に合わせて、距離を延ばしたり、途中で八の字を描いたりするなどの工夫をする。	・コーン ・ソフトバレーボール  【教師参照】 ・映像資料：シッティングバレーボール

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
展開② 円陣パスラリー (13分) 【35分】 目安 チーム内練習： 5分 ラリー：4分 2チームラリー： 4分	(1) チームごとの円陣パスラリー  (2) 2チームで向かい合い、3回ずつパスして相手チームに回すというラリー	(1) ・習熟度に応じて、1回バウンドまではよい、キャッチをしてもよいなどのルールを作ってもよい。 ・足や頭などでもパスを上げてもよいことを伝えてもよい。(体のどの部分を使ってもよい) ・本来は、同じ児童が2回連続でボールにふれてはいけないが、習熟度に応じて、そのあたりも加減してよい。 ・円陣がどんどん小さくなってきてしまう可能性があるため、状況に応じて声かけをする。 ・慣れてきたら、3分間で何回パスをつなぐことができるか、などの設定で競わせる。  (2) ・(1)を数回やって、慣れてきたら、2チームでのパスのラリーを行い、時間があればパスが続いた数を競う。	・授業用シート (2-2)  【教師参照】 ・教師用ハンドブック「パラリンピックスポーツとは」参照
振り返り (5分) 【40分】	体験して思ったことを児童用ワークシートに書かせ、振り返らせる。 ・ワークシートへの記入	・うまく書けていない児童は、今日驚いたことや新しく知ったことなどを聞き出して、書けるようにフォローする。 ・時間がない場合は口頭での振り返りとし、ワークシートは宿題にしてもよい。	・児童用ワークシート (2-2)
まとめ・片づけ (5分) 【45分】	数人に振り返りを発表させた後まとめる。 ・発表させる ・まとめる ・協力して片づけをさせる	・児童の驚きや気づきを発表させ、よい発言があったらほめる。 ・発見したコツを披露させてもよい。 ・まとめとして、友達への配慮や、係としての確に動けたことなど、よい態度があったらほめる。 ・用具の片づけも協力してできるようにする。	・児童用ワークシート (2-2)